

## トークサロンこの1年

さがみはら市民会議では、ネットワーク委員会の手で「トークサロン」が開催されています。トークサロンは市民と市民をつなぐ市民会議らしいユニークな試みです。様々な市民が出会い、交流を深めることができました。今年度も会員の皆さんにもお知らせしたいと思ひ会報を発行します。来年度こそ是非ご参加を！！

### 今年のトークサロン一覧

	開催日	テーマ
第37回	7月16日(土)	地域の魅力を発信する市民活動
第38回	9月24日(土)	留学生と語る ～文化の違い～
第39回	10月17日(土)	地域・市民活動のすすめ！～地域活動と市民活動～
第40回	3月31日(土)	個人の備えと地域の備え～地域防災とまちづくり～

### 第37回 (参加者14人)

#### 地域の魅力を発信する市民活動

開催場所：桂北公民会 2階 会議室

参加人数：ゲスト2人、一般8人、会員4人



津久井地域で活動されている2つの団体をゲストとしてお迎えしました。相模湖町の「まち夢工房」の川上伸一さん、藤野

町で活動されている「なぐら談会」の佐藤鉄郎さんから話を伺いました。

「まち夢工房」は「まちづくり塾」として行政側が年間20名の受講者を5年間受け入れ、その後に出た現在16名の団体。地域に残されている「照手姫伝説」を中心にこれに繋がる 小栗判官も含めた全国に広がっている伝説を追い求め、このテーマを地域活性化の一つに据えて活動を続けている団体。

「なぐら談会」は名倉地区に住む団塊世代を中心にしたボランティア団体。手始めに名倉地区にある藤野園芸ランド遊歩道30ヶ所に案内板を設置し、これを組み込んだイラストによる地図「藤野なぐら地区てくてくマップ」を地域活性化事業交付金助成事業として取り組んだ。その結果遊歩道

の利用者が多くなってきている事実がある。地域が高齢化する中、「ある物探し」をしながら地域から色々な発信をして行きたい。「里の駅」構想も有るが、地産の物を売るだけでなく「おすそ分け」の気持ちを大切にしたい。活動を始めた事により会員同志の結び付きが強くなり地域に対する思いも強くなってきた。

隣同士の地域ですが以外にお互いの活動は知る機会が無いのが現状です。互いの活動を知りながら何か新しい発展が出来ることを楽しみにしています。とても楽しいトークの時間でした。桂北公民館もとても趣の有る公民館でした。(滝口)

### 第38回 (参加者15人)

#### 留学生と語る ～文化の違い～

開催場所：プロミティふちのペビル D会議室

参加人数：ゲスト3人、学生2人、一般7人、会員3人

「留学生と語る ～文化の違い～」をテーマに、中国人の桜美林大学修士課程2年生の姜新(キョウ・シン)さん、ネパール人の横浜国立大学博士課程5年生のカヤスト・ラガブさん、韓国人の、国土館大学4年生の金智恵(キム・ジヘ)さん、3名の学生さんをゲストにお招きして、文化の違いについてお話していただいた。ネパールは多民族国家であることや、韓国の伝統の服は「チマジョゴリ」ではなく、「ハンボク」であることなど、ゲストが伝えたい事を自由に発表してもらい、意見交換した。成田空港に着くと醤油の匂いがする等、各国特有の匂いがあることや、日本人は時間に厳格だが、大半の国は時間にルーズであるとか、外国に出たり、外国人から指摘されて、改めて分る事も沢山あるとの感想もあった。

交通の便のよい場所を選んだが、やはり参加者は少なかった。トークの内容には、ほぼ満足された様子。外国に興味を持って



いる様子は分るが、外国人との共生には程遠い。相模原の国際化もまだ遠いと感じた。(益子)

### 第39回 (参加者11人)

#### 地域・市民活動のすすめ！～地域活動と市民活動～

開催場所：さがみはら市民活動サポートセンター 会議室

参加人数：ゲスト2人、一般2人、会員7人

ゲストに、麻溝地区自治会連合会会長の迫切陸廣さんと横浜市栄区本郷中央連合町内会・自治会 事務局長の竹谷康生さんをお迎えして、自治会の活動と自治会と連携して活動している市民活動の事例を紹介してもらい、意見交

換した。ちなみに、竹谷さんは横浜市市民活動支援センターを管理運営している「NPO法人市民セクターよこはま」の理事も兼任している。

・自治会は、日常的な親睦交流を通じて連帯感を培い、地域の問題を協調して解決し、より住み良い地域を作ること



を目的として、多岐に亘る分野について活動している事の説明を受け、非常に大変な活動である事が実感できた。

・自治会は行政をはじめとし、地区社会福祉協議会、地区民生委員、公民館運営協議会等の地域の団体との関わりが大きいので、地域で市民活動を行う時に大きな影響があり、連携して活動すると効果が大きいと感じた。

・横浜市栄区本郷中央連合町内会・自治会の事例報告では、自治会と市民活動の比較の中で、相互理解が不足しており、地域を活性化するためには自治会と市民活動団体のゆるやかな連携、緊密な協力が必須である事が理解できた。

・横浜市栄区本郷中央連合町内会・自治会での事例として、自治会、老人会、有償家事支援団体の3団体が連携し、色々な工夫をして行っている地域活動の具体的な説明があり、参考になった。

・地域活動の運営で、スキルとマネジメントの分離という考え方は参考になった。今回のトークサロンが地域活動と市民活動の連携のきっかけになることを期待する。(神田)

#### 第40回 (参加者5人)

#### 個人の備えと地域の備え～地域防災とまちづくり～

場所：さがみはら市民活動サポートセンター

参加人数：ゲスト1人、一般2人、会員2人

平成23年3月11日の東日本大震災から1年が経過していますが、被災地はまだ復興途上にあり、継続した支援が行われていますが、同時に、近年中に日本のいたるところで巨大地震の起こる可能性があるといわれており、私たちは被災地支援を行いながら、防災対策も進めていかねばなりません。そこで、平塚市の防災危機管理課との協働事業を実施している市民活動団体「ひらつか防災まちづくりの会」の運営スタッフでFM湘南ナパサのパソナリティーの山田美智子さんを迎えて、「地域の備え」の実践例を学び、「個人の備え」として、担当者個人宅の非常持出袋の見直しの実践を報告しました。

#### 「防災力＝コミュニティ力」

「ひらつか防災まちづくりの会」は平塚市の防災危機管理課と協働で防災に関する講演会や防災リーダー養成研修(初級・中級)、防災ニュースの発行等を行っています。事業を進めるにあたっての防災の知識やノウハウそのものは会の方がありますが、協働事業になることで市民の信頼感を得ることができ、自治会の協力を得ることができず。基礎資料の構築のためのアンケートも自治会を通して行い、8割近く回収ができました。防災リーダー養成の目的は、地域の中に自治会とは別の自主防災組織を作り、専門性を維持していくというものです。また、平塚市内に11の防災関係の団体がありますが、普段はそれぞれに活動をしています。そこで、防災関係のイベントを開催することで団体間の連携をとっています。

また、FM湘南ナパサは湘南ケーブルネットワークと共同で防災番組を制作しています。そして、被災時の情報の発信について検討し、防災無線の改善やツイッター、フェイスブックの活用を想定しています。

#### 「コミュニティ力を強める＝減災」

現在、いろいろなところで防災訓練が行われていますが、イメージの伴わない訓練は実際の災害時には役に立たず、また、訓練していないことはできません。災害時の被害を少なくするため、多くの人に防災イベントに参加してもらう、そのための工夫が大切です。また、様々な



団体の得意分野を持ち寄り、ビジョンを持って活動を進めることが重要です。そして、「安全安心のまちづくりは子どものころからの防災教育」…日頃の地道な活動が重要です。

当日は、あいにくの天気で嵐に見舞われ、参加を予定していた方も欠席となってしまい残念でした。他市での取り組みで当市とは状況は違いますが、防災活動の現実がよくわかり、非常に参考になりました。身の回りに組織的な取り組みがなくても、まずは、個人の努力を行い、それを身近な人に伝えることから始めてみようと思いました。(鹿野)

★★★★★★★★★★★★

今年度も会報をお届けします。実は最後のサロンが3月31日だったため、発行日がずれてこんでしまったことをご了承下さい。参加すると必ずよかったです。次回は是非ご参加を！(T.N.)

記事提供：ネットワーク委員会 発行：政策情報委員会